

ふうけいきこう
風景紀行
古道島々明神線

90

中信署

(各署の景勝地等を紹介)

信濃路自然遊歩道

(上高地国有林)

「**中信署**」日本の屋根といわれる北アルプス、その南部の玄関口上高地は、穂高連峰をはじめ、槍ヶ岳、常念山脈など個性派揃いの山々に囲まれています。



徳本峠から穂高岳（前穂高、明神岳）

上高地は国内有数の山岳観光地であり、特別名勝及び特別天然記念物に指定

され、そのほとんどが国立公園特別地域にも指定されています。

上高地は古く山岳信仰が起源で、神聖の地として存在していました。江戸時代初期からは松本藩の重要な藩有林として山の麓ではヒノキ・サワラなどの伐採搬出が行われ、杣人（そまびと）は島々から島々谷を通り徳本峠を越え、上高地へ入るようになりました。更にこの道は信州と飛騨を結ぶ街道でもあり、上高地の歴史を刻んだ重要な道でもあります。

明治二十四年イギリス人宣教師ウォルター・ウエストンはこの道を辿って上高地に入り、それ以降数回にわたりこの道を通り、槍ヶ岳や前穂高岳に登頂することになります。明治二十九年に本国で「日本アルプス―登山と探検」を出版し、日本アルプスの存在を世界に広く紹介しました。

これも日本の近代登山幕開けのひとつとなり、島々は上高地の玄関口として、多くの登山者また文化人らが上高地に入るようになり、昭和初期に車道として釜トンネルが開通し、それ以降はこの道を利用して上高地を目指す登山者は年々減少し、今は北アルプスでは珍しく静寂な登山道として存在しています。

島々から二俣までは林道を歩き、そこから古い軌道敷に沿った山道になります。道脇には炭窯跡もあり、かつては林業地であったことがうかがえます。二俣と徳本峠の中間点の岩魚留小屋にあるカツラの太木は、登山者をやさしく出迎えてくれます。次第に登りはきつくなり

島々からほぼ二〇キロ、徳本峠に立ったとき、そこから望む穂高・明神岳はまさに、神の存在をも思わせる神秘的な光景として目に飛び込みます。

ここに建つ徳本峠小屋は上高地でも重要な建物として、平成二十二年に文化庁の登録有形文化財に指定されました。この歴史的重要な道は数年前より関係者により維持作業が行われ、今年度から有志により「古道徳本峠道を守る会」が立ち上がり、本格的な維持保存活動が行われています。

古くから開けた上高地へと続く古道島々明神線を、歴史と沢筋を渡る風を感じて歩いてみてはいかがでしょうか。

◆所在地（徳本峠）

長野県松本市安曇

◆アクセス（長野県側より）

「公共交通機関」

◎松本電鉄上高地線の島々駅で下車し、タクシーで島々地区まで約一〇分、そ



徳本峠小屋



晩秋の岩魚留小屋とカツラの木



岩魚留小屋とカツラの木

こから登山道を徒歩で約七時間三〇分
◎松本電鉄上高地線の島々駅で下車し、路線バスで上高地まで約一時間五分、そこから登山道を徒歩で約三時間三〇分

「自家用車」

◎長野自動車道松本インターから島々地区まで約三〇分

◎長野自動車道松本インターから沢渡駐車場まで約一時間一〇分、路線バスまたはタクシーに乗り換え上高地まで約三〇分